

巻頭言（紀要第6号の発刊によせて）

当校は、平成5年に開校し、この春、めでたく30周年の節目を迎えることができました。

当校の設置にあたっては、昭和62年に江津商工会議所を中心に誘致運動がスタートし、県への陳情やニーズ調査、周辺の道路整備など、様々な苦難を乗り越えて開校に至ったようです。また、平成5年の開校当時には、既に全国に20校の職業能力開発短期大学校が設置されており、即戦力となる産業人材を育成する高等教育機関として各企業からの高い評価を受けていたこともあり、山陰で唯一、江津市での開校は、産業界のみならず市民の期待を集め、大いに歓迎されていたようです。

こうやって期待され開校した当校ですが、30年経った今でも、江津商工会議所をはじめ島根県、江津市、地域団体等の関係機関、企業の皆様及び学校関係者の方々を始めとした各方面の多くの方々に支え続けられており、今日まで地域のものづくり人材の育成拠点として活動してこられたことに、教職員一同感謝しております。

また、即戦力となる実践技術者を育成する当校が、「小さな街」である江津市に立地する「強み」を最大限に生かし、人材育成はもとより、ものづくりに対する関心の高揚、専門性を生かした地域課題の解決などにこれまで以上に連携して取り組むことを目指し、令和5年7月11日には、江津市と当校との間で包括連携協定を締結しました。

今後も地域のものづくり人材の育成拠点として、地域と一体となり取り組んでまいります。

さて、今回の紀要の発刊は、主に令和4年度の教育訓練の活動の記録を記載しており、学生を交えての講師陣の専門分野に関する研究、授業の中での実践的な課題や総合制作実習の取り組みを報告しています。

これらの活動は、講師陣自身の想像力、発想力を豊かにするだけでなく、学生にとっても限られた授業時間の中で試行錯誤しながら完成させたもので、問題解決力や思考力などを身につける良い機会となっています。紀要第6号はこのような活動を日頃から記録にとどめ、常に現場の問題に直面し、今後どのように向かい合っていくべきなのかなどについて、地域の企業や事業主団体等の方々に十分ご理解していただくことを目的に編纂したものです。

本報告内容が一人でも多くの方に読まれ、教育訓練の向上並びに発展のため、地域社会及び産業に貢献するため、また、各自の飛躍の糧となるよう関係各位からの忌憚のないご意見・ご批判をいただければ幸甚に存じます。

最後に、当校は地域に根差し、地域に愛され、地域に貢献する大学校をめざして、たゆまぬ研鑽をしていく所存でございますので、なお、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

2023年10月

島根職業能力開発短期大学校

校長 菅 和雄